

流域治水プロジェクトの充実に向けて

令和6年3月8日
相模川流域治水協議会

各機関が多様な主体と協働・連携している取り組み事例

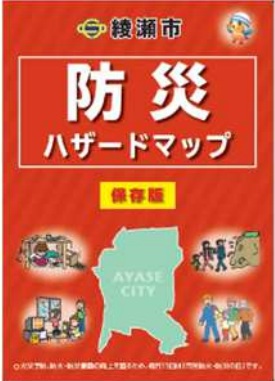
(10月のアンケート回答含む)

協働・連携先		取り組みの内容
市町村 ⇔	自治会、学校、住民等	・ マイ・タイムラインの作成支援（出前講座） (綾瀬市、秦野市)
	民間企業 国機関	・ ケーブルテレビやラジオを使った流域治水の一般周知（国のパネル展資料を活用） (平塚市、SCN（湘南ケーブルネットワーク）、FM湘南ナパサ、京浜河川)
	県、国機関	パネル展示による流域治水の一般周知 (神奈川県、平塚市、茅ヶ崎市、京浜河川)
	国機関	SNSを活用した広報連携 (平塚市、茅ヶ崎市、京浜河川)
県 ⇔	桂川・相模川流域協議会（住民等）	・ シンポジウムでのダムの緊急放・流操作に関する説明をし、洪水時のリスクについて一般住民にわかりやすく説明 (神奈川県) ・ パネル出展 (山梨県)
国機関 ⇔	自治会	・ 出前講座において水害リスクの確認方法を説明 (寒川町、京浜河川)
	子供、住民等	・ 防災カードゲームの場を設け、子供と保護者に流域治水の周知 (馬入水辺の楽校、京浜河川)
	市民団体	・ 流域治水の学習会の講師として、身近にできる流域治水の取り組みを紹介 (京浜河川)

地域の防災訓練や中学校への出前授業（綾瀬市）

概要 要：市役所主催の出前授業
場所 所：市内各地の自主防災訓練や中学校の授業
事務局 局：綾瀬市

綾瀬市では、市内の各地区で実施される自主防災訓練や中学生への防災講座等で、マイ・タイムラインや洪水浸水ハザードマップなどの説明を実施し、個人で取り組むことができる流域治水対策を広く周知する取組を行っている。



綾瀬市 防災ハザードマップ 保存版

AYASE CITY

いつ避難するの？ わが家のマイタイムライン

マイタイムラインとは、台風の接近によって河川の水位が上昇するとき、自分自身や自分の家族がとるべき行動について、「いつ」「誰が」「何を」するかあらかじめ確認した防災行動計画です。日ごろから家庭で話し合っておきましょう。

家族が・我からの情報	市からの情報	何をやる？
・大雨警報 ・暴風警報 ・大雨特別警報（暴風・土砂災害）	・避難勧告 ・避難指示（緊急） ・洪水警報	・テレビ等で災害情報を確認 ・マイタイムラインの確認 ・防災ハザードマップで避難場所を確認 ・避難経路を確認 ・家族でどこに避難するかを確認 ・家族の役割を確認する ・避難場所を確認
・自主避難（緊急に避難） ・自主避難（大雨特別警報・暴風警報・土砂災害特別警戒時） ・自主避難（大雨特別警報・暴風警報・土砂災害特別警戒時） ・自主避難（大雨特別警報・暴風警報・土砂災害特別警戒時）	・避難勧告 ・避難指示（緊急） ・洪水警報	・避難場所を確認 ・避難経路を確認 ・家族でどこに避難するかを確認 ・家族の役割を確認する ・避難場所を確認

ここまでに家族全員が避難を完了しておく

・家に家族がいない
・避難場所を確認
・避難経路を確認



中学生への防災講座の状況

マイタイムラインの説明資料や記載例

概要：流域シンポジウム
日時：令和5年11月25日（土）
場所：えびな市民活動センタービナレッジ
参加者：約50名
実施主体：桂川・相模川流域協議会

「住民参加で考える流域治水」というテーマにより、基調講演・事例発表・トークセッションを通じて、参加者が水害対策への意識向上を図る目的として開催。



パネル展示(山梨県)



パネル展示(京浜河川)



整備局の流域治水動画の放映



神奈川県城山ダムの緊急放流に関する事例発表



実行委員長の流域治水の課題に関する説明

他河川での取組事例

～ 大和川水系(奈良県)・九頭竜川水系・北川水系(福井県)ほか ～

県防災士会の協議会参画

大和川流域水害対策協議会に奈良県防災士会にも構成員として参画頂き、民間・個人による貯留対策や避難の実効性の確保の観点から、流域水害対策計画の策定において、意見を聴く。
九頭竜川水系・北川水系においては、マイ・タイムライン等の作成に向けたワークショップにて、協議会構成員である福井県防災士会からも講師を派遣いただき、地域住民の安全確保に連携して取り組む。



～ 江の川水系(島根県・広島県) ～

まちづくりと連携した治水計画の策定

近年2度家屋浸水した地区の早期被害軽減に向けて、まちづくりと連携した具体的な治水対策を住民との意見交換を踏まえ決定し、マスタープランとしてとりまとめ

～ 物部川水系(高知県) ～

山地・森林の保全に向けた意見交換

物部川上流域での山の保全・環境・利水など多様な課題と、住民団体の活動について、「物部川21世紀の森と水の会」や「三嶺の森をまもるみんなの会」などと定期的に意見交換



～ 山国川水系(大分県・福岡県) ～

河川協力団体の協議会参画

防災学習会、避難計画立案支援等を実施している河川協力団体「NPO レスキューサポート九州」がオブザーバーとして参画することで、官民連携による地域防災力向上に繋げる。
(令和4年度より予定)

～ 庄内川水系(岐阜県・愛知県) ～

シンポジウムにおいて住民意見を公募

開催に先駆けて公募した住民からの意見・質問を、シンポジウムで紹介・回答するとともに、協議会に報告して議論。
また、流域治水の取組PRのためのツールとして、ロゴマークのデザインを公募し一般投票で選考、シンポジウムにて発表。



～ 後志利別川水系(北海道) ～

町内会長・自治会長の協議会参画

流域が2町(今金町、せたな町)で構成されることも踏まえ、住民代表を交えた議論を通じ、自治体タイムライン作成等の効果的な実施により地域防災力の向上に繋げる。

～ 鳴瀬川水系(宮城県)・雄物川水系(秋田県)ほか ～

田んぼダム普及・住民参加の取組を推進

宮城県・秋田県・各市町村により、田んぼダム実証地区における関係者との取組状況や課題の共有・PRが行われている。
鳴瀬川流域では住民から聞き取った意見を元に『新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」』を取りまとめ、流域治水に関する取組を実施中。

～ 利根川水系烏川・神流川(群馬県) ～

防災公園の現地視察会

災害時に避難場所や支援物資の集配拠点、応急仮設住宅用地等としても活用される藤岡市防災公園の視察会を開催し、地域住民(区長)と意見交換。



～ 一宮川水系(千葉県) ※2級水系～

地域と双方向コミュニケーション

流域市町村ごとに部会や分科会を設け、地域特性に応じた流域治水の進め方について、地域住民や農業関係者等と意見交換。
また、ポスター展やシンポジウム、広報紙で情報発信するとともに、アンケートで地域の意向などを情報収集。

各機関が多様な主体と協働・連携する取組の推進に向けて

- 流域治水プロジェクトの充実にあたり、当協議会も多様な主体と協働・連携している取り組みを増やしていくことが重要。
- 構成員に流域治水に関する意向把握アンケートを実施。
- 主な意見に「流域治水の認知度が低い」「効果的な広報事例を知りたい」といったものがあった。

主な意見	対応
「流域治水」の認知度が低い	事務局より広報支援ツールを提供
身近にできる対策を伝えられると良い	
子供向けの周知も必要	
SNSや広報誌の活用がいいのではないか	
他流域の普及啓発広報事例を紹介してほしい	

広報支援ツールの活用メリット

- 構成員独自で作成する必要が無いため、**低コストで効率的な広報展開が可能**
- 一定水準の広報を流域で展開していくことで、**流域治水の認知度の底上げを図ることができる。**
- **既存のイベントやツール（広報誌・デジタルサイネージ・SNS）を活用できる。**
- 担当者会議等を通じ、**好事例や改善が必要な点を共有しツールの充実を図る。**

押しグッズ例	ツールの説明	メリット
チラシ	協議会の 広報チラシ を用意	窓口やイベントで配布し多くの人に届けることができる
SNS	共通するハッシュタグ を決める。 後のデータ収集にもメリット	・特定の媒体に限定することなくPRが用意にできる。 ・他構成員の取組事例の確認が容易
PR動画	国土交通省公式動画から 結城治水関連の説明動画を複数共有	自治体所有のデジタルサイネージで流したり、出前講座等で流域治水の広報をする際 の説明動画として活用可能
子供向け広報ツール	防災カードゲーム活用キット	出前講座の新しいツールのひとつになる。 (詳細は今年度の事例集に記載)
アンケートフォーム	インターネットアンケートフォームを作成。	・協議会としての認知度調査ができる ・QRコードにして省スペースで広報誌等に掲載が可

広報支援ツール例【流域治水広報用チラシ】

さがみがわ

はじまる
新しい治水対策

流域治水

りゅういきすい

みんなでできる流域治水

近頃の川が氾濫...? そんなときに役立つ情報サービスの活用、平常時からの意識、避難マニュアル作りも、流域治水のひとつです。

①平常時から水害リスクを把握

②避難時の行動をシミュレーション

③浸水ナビ

④マイ・タイムライン

はじめよう!
みんなで流域治水

「流域治水」とは

どこでする?
相模川の流域

だれがやる?
流域に囲むあらゆる関係者みんなが

なにをする?
3つの対策

「協働」
して行います

相模川流域治水プロジェクト 検索

やってみよう! みんなの流域治水

できることから、チェックを入れてみよう!

① 避難時に役立つ情報サービスの活用

② 平常時からの意識

③ 避難マニュアル作り

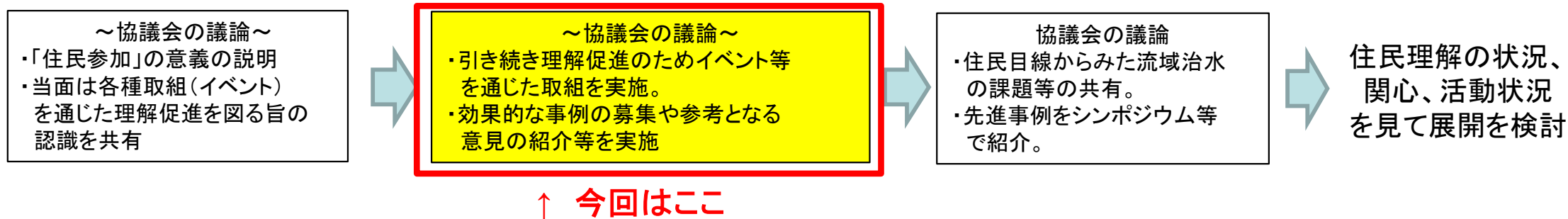
④ 浸水ナビ

⑤ マイ・タイムライン

⑥ 相模川流域治水の取り組み

今後の取組方針

～進め方イメージ～



○引き続き各種取組（イベント）を通じた理解促進を図る。

○住民等を含む多様な主体と協働・連携している取り組みを一層推進する。

○各構成員の取組事例を充実させていくために、協議会内で多様な主体と協働・連携している取り組み事例の共有を図る。

○他河川の事例を参考にしながら、相模川の特性を考慮し担当者会議や勉強会において多様な主体と協働・連携について議論を深めていく。